

まちの主役は町民一人ひとり

チームの帽子をかぶっていると
まちの人が声をかけてくれます。



宇地原 海斗くん

世名城ジャイアンツ キャプテン
一九九七年生まれ
県内はもちろん九州地区でも有名な
強豪少年野球チーム「世名城ジャイアンツ」

音楽ができることに感謝して
音楽で気持ちを伝えたい。



大城 友弥さん

一九九〇年生まれ
全盲のミュージシャン
クリスマスのイベント
「ふれあいチャリティコンサート」は
五年目を迎えた



世

名城ジャイアンツは小学校二年生から六年生の少年野球チームです。個性派揃いで団結力があり、みんなですべて守ってみんなで攻める、その中で僕も活躍できた時は最高にうれしいです。普段の練習では、四、五年生は大人が指導してくれて、三年生以下は六年生が守備練習などを教えています。卒業した先輩たち

もよく見にきてくれてピッチングのアドバイスをしてくれるので、僕も卒業したら後輩に教えてあげたいと思っていました。いつも監督から挨拶が基本だと教えられているので、まちで出会った人には「こんにちは」と自然に挨拶しています。また、チームの帽子をかぶっているとよく声もかけられるのでうれしいです。

最

初のふれあいチャリティコンサート「ト」は、僕が中学二年生の時に身内だけでやってみようと思いついたのですが、三回目からお客さんが増え、会場も大きくなり、ゲストを迎えたりと規模がだんだんと大きくなりました。今は八重瀬町の「ぼえむ」という喫茶店でピアノニストの武田光史さんと「音遊び」と題してラ

イブを行っています。ライブというより音でゆんたく(会話)している感じで、みんなで遊びましょう！という思いでやっています。音楽ができるということ、僕は大好きな音楽ができることに日々感謝しています。そして町民のひとりとして、音楽で気持ちを伝え、こちらから音楽が広がっていくといいなと心から願っています。



沖縄の音楽が
自分の一部になっています。



與儀 朋恵さん

1978年生まれ
県立芸術大学出身
琉球芸能を幅広く学ぶ
現在琉球音楽太鼓護鼓の会支部長

と二人で三歳から八十歳までのお弟子さん約三十五人に琉球音楽太鼓を教えています。日中は古典の活動、夜はお弟子さんのお稽古や民謡ライブで、自分の練習はどうしても夜中になりますね。休みの日もよく公演を観に行くので、沖縄の音楽や楽器にふれない日はありません。音楽が自分の一部

になっていて、何かしないと落ち着かないんです。まちの皆さんからは、発表会に来ていただいたり、励ましてもらったり、大きなサポートをいただきとても感謝しています。私も地域に貢献できたらという気持ちから、東風平中学校では太鼓、白川小学校では三線を教えていますが、子どもたちから最近の音楽を教えてもらったりと私自身勉強になっていきますよ。これからの素敵な八重瀬町で、楽しみながら音楽をずっと続けていきたいです。

お酒を造り続けることで
地域に貢献したいです。



神谷 雅樹さん

1972年生まれ
町内唯一の泡盛酒造所
「神谷酒造」の3代目社長

造りで難しいのが麴の管理です。麴は気温や湿度に左右されるので、安定した味にするために常に同じ状態を保つことが大切なんです。お米は水分が少なく、乾燥気味のほうがうまくできるのでタイ米を使っています。古酒は現在では三年ものですが、いづれは十年もの古酒

も造っていききたいですね。七年もの古酒は三年後をめぐりに発売したいと計画中です。合併した八重瀬町は、商工会によるまちおこしが活発になってきているように感じます。うちの主力のお酒「南光」は町内での需要も高まってきているので、これからも美味しいお酒を造り続けて地域に貢献したいですね。

沖縄の平和について語り継ぐ
それが私の使命です。



崎原 真弓さん

1963年生まれ
歌、三線、踊りや空手、
オバーの一人芝居を取り入れた
独自のスタイルでうちな文化、
沖縄の平和について語り継ぐ

〇〇〇年に姉と立ち上げたガイドクラブは当初は順調でしたが、翌年のアメリカで起こったテロ事件で仕事が激減しました。それからピンチをチャンスに変えようと試行錯誤を繰り返して、現在のガイドスタイルになりました。普段は公演の合間に美ら島観光さんでガイドをしています。お客さんはリピーターや紹介の方がほとんどで一年前からの予約もあります。八重瀬町は行政を含め地域ぐるみで熱心に平和活

動に取り組んでいるまちです。地域と関わりながらここを拠点とすること、たくさんの交流が生まれています。沖縄の歴史そのものがものすごく心に響くし、語りべとしてどう伝えていくか日々考えています。そしてそれが私の使命だと感じています。

